

令和元年度第3回旧国立駅舎運営連絡会議事録（要旨）

日 時：令和2年2月27日（木）19時00分～21時00分

場 所：国立市役所3階 第3、第4会議室

出席委員：磯部委員、木村委員、藤田委員、藤本委員、宮崎委員、鈴木委員、三島委員、落合委員、佐藤委員、洪委員、中村委員

欠席委員：秋田委員

事務局：都市整備部 門倉部長

国立駅周辺整備課 関野課長、菱沼主査、後藤主任、清水主任

記録（要旨）

1. 開会挨拶等

- ・都市整備部長より新型コロナウイルス感染症に関する情報提供を行った。

2. 第2回運営連絡会の振り返り・事務連絡

（事務局） 前回の運営連絡会の前半では、会の役割について確認した。1つ目は今年度、市職員が事前相談された際の判断の拠り所となるようなコンセプトのようなものを決められると良いということ、2つ目は2020年度は、事務局から事前相談時に困ったことや良かったこと等を報告してもらい、運営連絡会にてどのようにすれば良かったかをフィードバックしていくサイクルを作りたいということ、3つ目はこの会のメンバーで事業を提案したいということだった。後半は、旧国立駅舎に移動し、活用のアイデア出しをした。いただいたアイデアは配布資料のようにまとめている。音楽やスポーツの使い方、販売やプロモーションの使い方などさまざまご意見をいただいた。

（鈴木会長） 本日の議事予定では、配布資料「使用ガイド（案）」について議論をする時間が十分に取れない見込み。各自読んでいただき、気になる箇所等があれば赤字で記入し、事務局に渡してほしい。

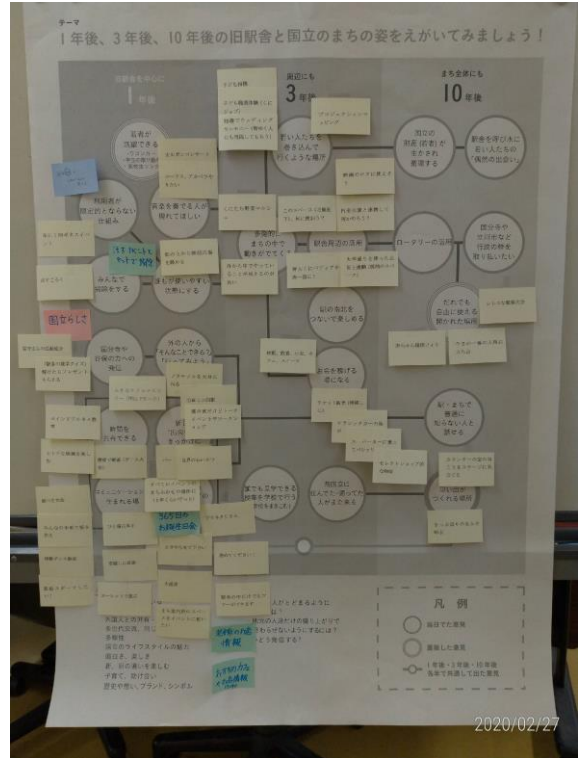
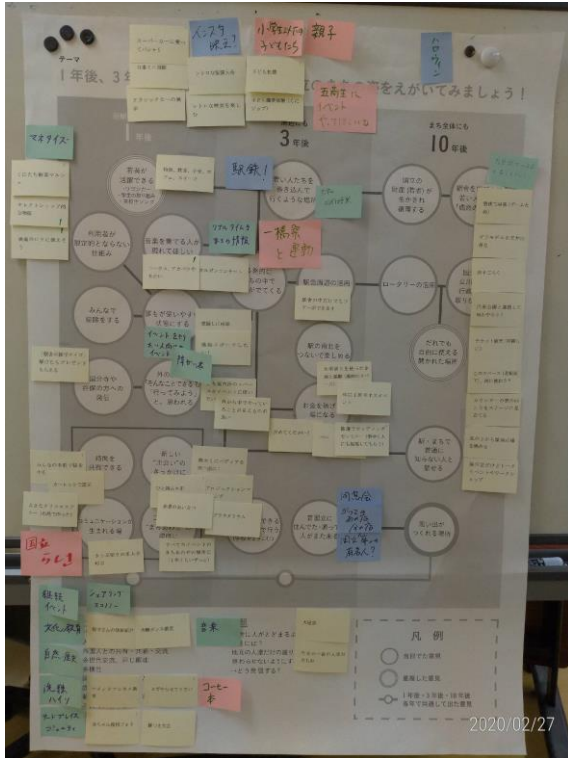
3. ビジョンと2020年度のコンセプト

（洪副会長） 第1回会議では、いったんビジョンについて意見交換いただいた。第2回会議では、実際に場を見て、具体的なアイデアが出たと思う。それらのアイデアを第1回のビジョンと照らし合わせて、このアイデアはビジョンのこの部分に該当するとか、抜けている考え方があったのではないとか、このアイデアは撤回したいとか、検証してほしい。第2回では主観的にアイデアを出していただいたところかと思うが、今回はより客観的に、旧国立駅舎がまちの玄関口としてどうなると良いか整理したい。

<ワーク（2班体制）>

- ・模造紙に拡大印刷した第1回会議まとめ資料「1年後、3年後、10年後の旧駅舎と国立のまちの姿を描いてみましょう！」の上に、第2回会議で出た各アイデアが印刷されたカードを配置し、意見交換を実施した。

(当日の様子)



4. 事前相談時のツールについて

(洪副会長) ワークにおいて、両方の班で、「くにたちらしさ」というキーワードが出ていることが面白かったと思う。

今後、さまざまな企画が旧国立駅舎に持ち込まれると予想される。使用申請の事前相談を受ける際に、市職員がこうすれば旧国立駅舎で実施するにあたってもっと良くなるというような提案ができるようになると良いと思う。そこで、事前相談時のチェックリストのようなツールを作るとその助けになると思う。そのツールづくりの“タネ”となるように、まずは「こんな旧国立駅舎だったら良いと思う・嫌だと思う」というテーマで意見を出し合ってもらいたい。

(鈴木会長) まずは具体的なもので構わない。それを「なぜそれだと困るか」ということを考えていき、最終的に抽象化することとしたい。

<検討結果>

【グループ1】

(洪副会長) まずポイントとしては「お掃除はみんなで」「いろんな人が使える」「いろんなテーマ(カテゴリー)で」というものが出た。

「お掃除はみんなで」は、この場所が文化財建物であるということもあるが、みんな

なに大切に使ってほしいということと、汚れてもきれいにすることを根付かせたいということ。この班では、使った後には必ず「掃除タイム」を入れ、楽しく掃除ができるというアイデアが出た。

次に、嫌だと思ふ事柄として、「専有する人が出たら嫌だ、使われ方が限定的にみられてしまうと嫌だ、いつも同じ人が使っているのを新しく使おうとしている人がやっぱり辞めようと思ってしまうことは嫌だ」という意見が出た。

(宮崎委員) 借りる側としても、旧国立駅舎でどんなテーマで使うことができるのか見えにくいと思った。誰でもが使えて、どんなことでもできるということを知ってもらうため、例えば1年～3年はジャンルが偏らないように、敢えて〇月は音楽月間、〇月は学生月間などの数か月前に告知しておき、応募を促す仕組みはどうかと考えた。

(洪副会長) 最初の1年をパイロット的にそうすれば、その後は自ずと続いていくのではないかという意見だった。「いろんな人が使える」「いろんなテーマ(カテゴリ)で」につながるアイデアと思う。

【グループ2】

(鈴木会長) 特定の人のみたまり場となっていることは嫌だ、ただの通路となつては嫌だという意見と、一方で旧国立駅舎内を歩いてほしいという意見が出た。そこで、通り抜けるには何が良かったら良いかという意見交換を行い、通る時にくにたちで起きているいろいろなことに出会えると良いという意見が出た。

また、旧国立駅舎は憩いのスペース、コミュニケーションのスペースとしたいという意見が出た。たまり場もコミュニケーションと言えるが、特定の人だけが専有している状況と、常に皆にオープンな状況には違いがある。ポイントは、「特定の利用者に限定されない」ということ、「特定のテーマに限定されない」ということ。一方で、何か特定のテーマがある方がコミュニケーションは進むので、さまざまなテーマが入れ替わりにできると良いという話がこちらの班でもあった。そして、そのテーマのキーワードとして「くにたちらしい」という意見からその「くにたちらしさ」とは何であるか意見交換をしたが、それも新しいもの・古いもの、未知のもの・既知のもの、多様であることがわかった。

さらにコミュニケーションの結果、旧国立駅舎をきっかけにまち全体で後で別の場所につながり広がるというのも一つのテーマかと思った。(通り抜けた際にくにたちの) 情報を知ることについても同じで、旧国立駅舎でイベントをやっけていなくても、まちの別の場所で面白いことをやっている所へ広がりが出る。最後に嫌なことに関する意見交換で「うるさいこと」と「にぎやかなこと」の間は何が違うのか考え、相互の理解の有無だということになった。だからといって、注意書きや張り紙だらけとすることは良くないので、長時間の利用や不平等など、人が嫌がることはしないというような「気遣い」が大事であるという意見が出た。張り紙や嫌だけどデジタルサイネージにコミカルに動画で流れるくらいだと良いという具体的なアイデアも出た。

(洪副会長) 本日の意見を参考に事前相談時のツールを作ってもらえると良いと思う。また、本日は運用に関してもさまざま意見が出たと思う。

